※このPDFは登録内容を確認するためのもので、書体、レイアウトなど実際の抄録集とは異なります。

一般演題

マイボーム腺機能不全に対するIntense Pulsed Light治療患者背景

福岡 詩麻[1,2], 有田 玲子[2,3]

[1]大宮はまだ眼科西口分院, [2]LIME研究会, [3]伊藤医院

【目的】マイボーム腺機能不全(MGD)に対するIntense pulsed light (IPL)治療は保険診療で改善がみられなかった症例に実施されることが多い。今回、IPLを希望した患者の臨床的特徴を明らかにするため、IPL治療前の患者背景を後ろ向きに解析した。
【対象と方法】2022年1月から2023年12月に伊藤医院でIPLを施行したMGD患者872例のうち、3回以上施術し、3か月以上の経過観察と完全なデータが得られた症例を対象とした。評価項目は併存疾患・既往症、治療薬、自覚症状、涙液・マイボーム腺関連パラメータとした。
【結果】解析対象73例146眼(男性26例、女性47例、平均年齢52.5±14.7歳)にIPLを8.6±3.8回(3〜18回)施術した。併存疾患・既往は、涙液減少型ドライアイ10%、アレルギー性結膜炎67%、コンタクトレンズ装用26%、緑内障5%、霰粒腫既往4%、白内障術後10%、脂質異常症27%であった。IPL開始時にドライアイ点眼79%、ステロイド点眼77%、アジスロマイシン点眼40%、抗アレルギー点眼33%、オメガ3内服55%をしていた。自覚症状とマイバムの異常を全例に認めた(SPEED 18.1±5.9、マイバムグレード 2.6±0.6)。Plugging 86%、vascularity 67%(各1.9±1.1、1.2±1.1)、マイボーム腺形態異常を97%に認め、涙液層破壊時間5秒以下は99%であった。
【結論】IPL治療を希望した症例は、マイバムの異常やマイボーム腺開口部閉塞所見とともにマイボーム腺形態異常を高率に認め、涙液安定性が低下していた。

【利益相反公表基準】該当有
【倫理審査】承認有
【IC】取得有